

2022年3月期第2四半期 決算説明資料


2021年11月24日

東証1部: 6333



株式会社 帝国電機製作所

1. 2022年3月期第2四半期決算
2. 2022年3月期業績見通し
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 環境経営への取り組み
5. 参考資料



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

1. 2022年3月期第2四半期決算



株式会社 帝国電機製作所

2022年3月期第2四半期決算概要



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)	2021年3月期 第2四半期	構成比 (%)	2022年3月期 第2四半期	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	9,598	100.0	10,179	100.0	+ 580	+ 6.1
売上原価	6,026	62.8	6,056	59.5	+29	+0.5
売上総利益	3,571	37.2	4,122	40.5	+ 550	+ 15.4
販売費及び一般管理費	2,647	27.6	3,059	30.1	+411	+ 15.5
営業利益	923	9.6	1,063	10.4	+ 139	+ 15.1
経常利益	993	10.3	1,237	12.2	+ 244	+ 24.7
親会社株主に帰属 する四半期純利益	768	8.0	802	7.9	+ 34	+ 4.4

増収増益

売上高

- ・ポンプ事業は日本、東南アジア市場等の回復が遅れているものの、中国市場のケミカル向けが好調であったことから増収。
- ・電子部品事業は、足許は半導体不足等による自動車減産の影響を受けているが、第1Qに自動車業界の回復に伴い需要が回復していたことから増収。
- ・収益認識基準の見直しによる売上への影響額▲204百万円

営業利益

- ・主に電子部品事業の回復により増益。
- ・ポンプ事業は、売上が主に中国市場において回復したものの、中国子会社の受注増加に伴うインセンティブによる人件費増加や研究開発費、輸送費の増加があり、また、前年同期における中国の修理子会社1社清算による未払税金（源泉税、増値税分）取崩しによる69百万円のプラス要因の反動減等もあり減益。
- ・収益認識基準の見直しによる営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響額▲46百万円

親会社株主に帰属する 四半期純利益

- ・営業利益の増加に加え、為替差益等により経常利益が前年同期比244百万円増加したものの、前年同期における中国修理子会社1社清算による未払税金（企業所得税分）取崩しによるプラス要因117百万円の反動減等もあり、四半期純利益は前年同期比34百万円の増加に留まる。

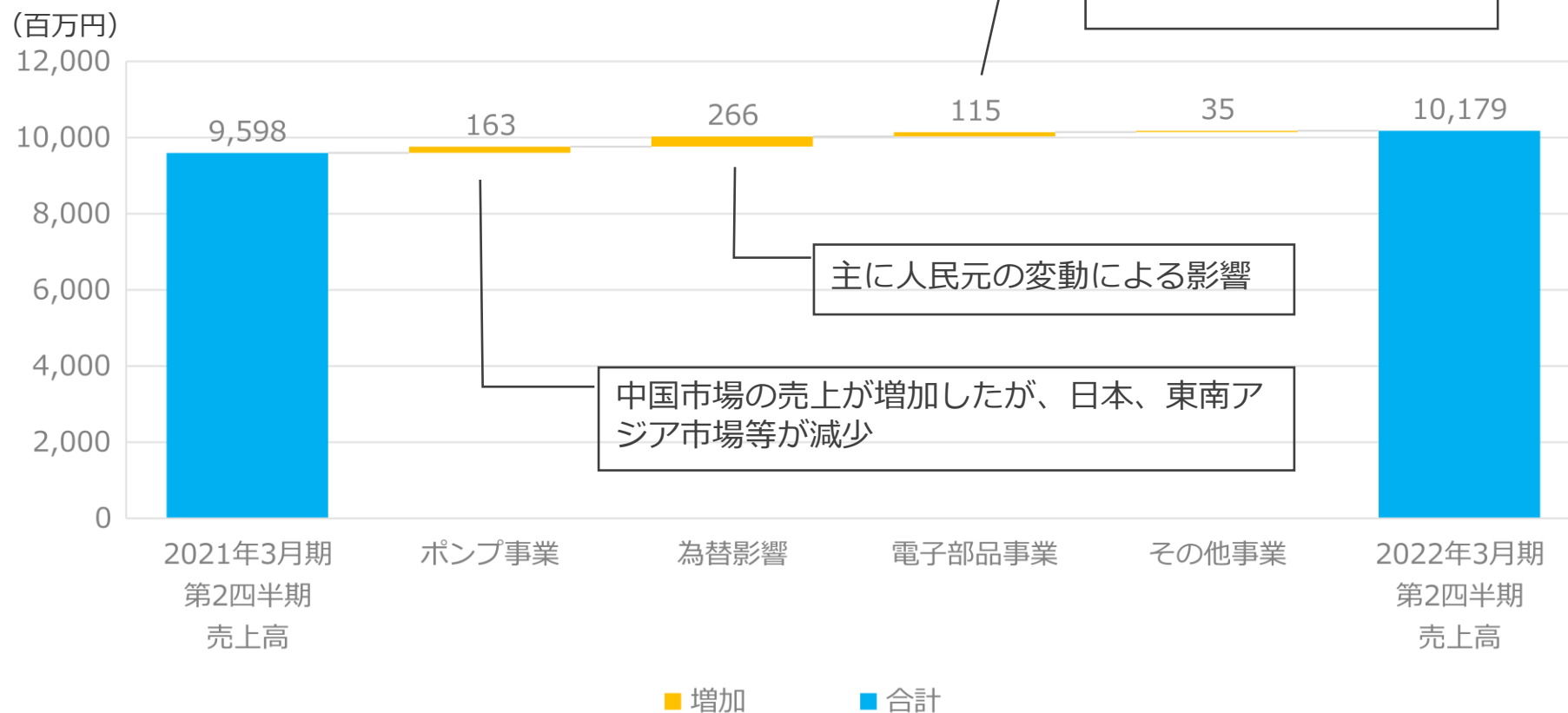
※ 当社が販売したキャンドモータポンプの一部の機種について、不適切な性能試験のもとで製品の出荷が行われていたことが判明し、出荷先のお客様と対応費用の負担等に係る協議を行っております。今後の交渉次第等によっては当社グループの連結業績に影響が生じる可能性があります。現時点ではその影響額を合理的に見積ることは困難であり、四半期連結財務諸表には反映しておりません。

売上高増減分析



株式会社 帝国電機製作所

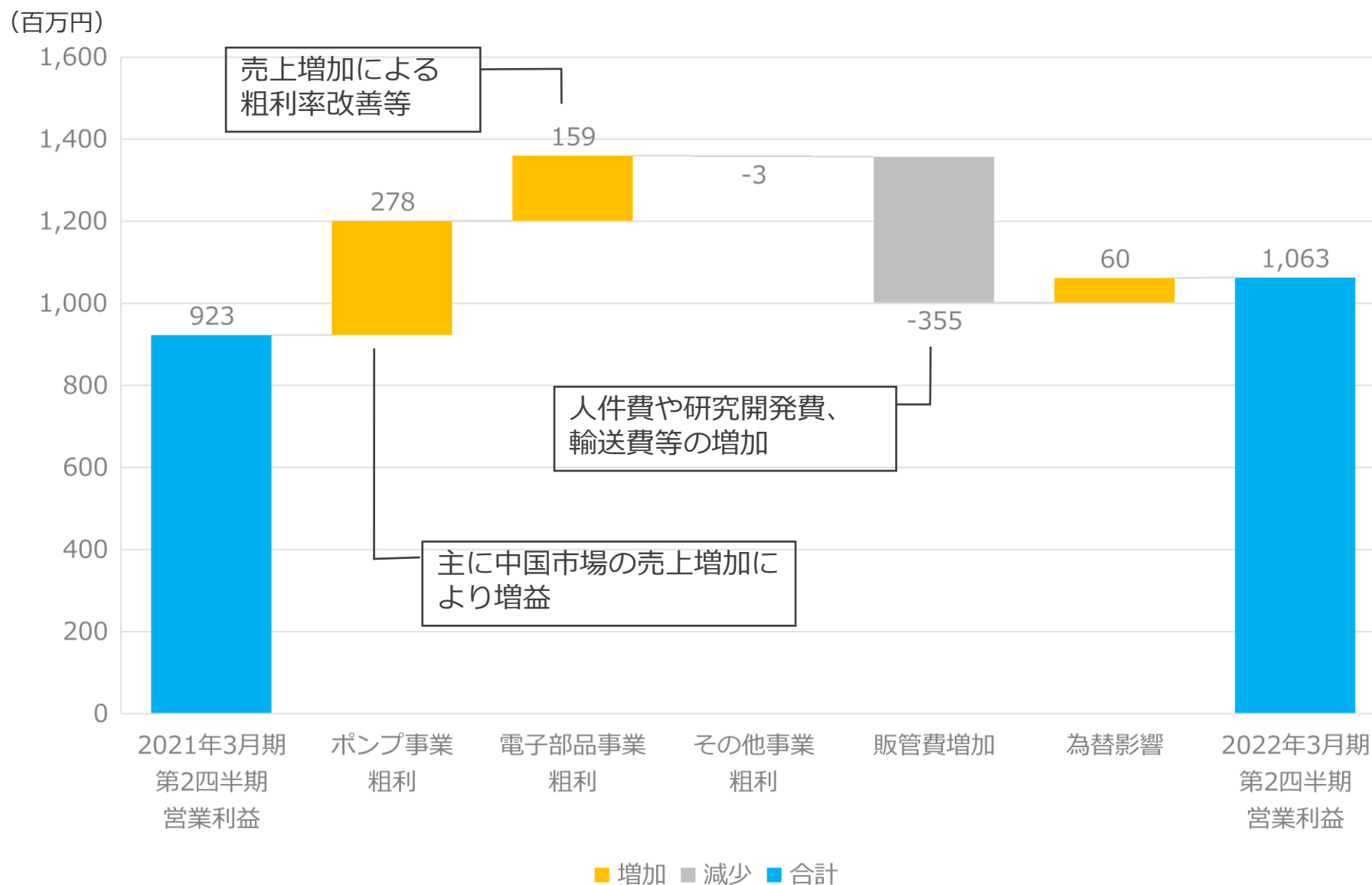
期中平均レート推移	2021年3月期第2四半期	2022年3月期第2四半期
U S ドル	108.2円	107.8円
人民元	15.4円	16.7円
ユーロ	119.3円	129.9円



営業利益増減分析



株式会社 帝国電機製作所



種類別セグメント（売上高・営業利益）



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)		2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	8,738	9,168	+430	+4.9%
	営業利益 (営業利益率)	1,037 (11.9%)	1,026 (11.2%)	▲10	▲1.0% (▲0.7%)
電子部品事業	売上高	646	761	+115	+17.9%
	営業利益 (営業利益率)	▲158 (－%)	3 (0.5%)	+162	－ (—)
その他	売上高	213	248	+35	+16.5%
	営業利益 (営業利益率)	45 (21.3%)	32 (13.1%)	▲12	▲28.1% (▲8.2%)
合計	売上高	9,598	10,179	+580	+6.1%
	営業利益 (営業利益率)	923 (9.6%)	1,063 (10.4%)	+139	+15.1% (+0.8%)

ポンプ事業 所在地別売上高



株式会社 帝国電機製作所

- 日 本・・・前期後半からの受注減速の影響を受け減収
- 欧 米・・・米国は前期堅調であった原子力向けの反動減あるが、メンテナンスや冷凍機向けが増加したことにより増収
- アジア・・・中国はケミカル向けを中心に好調に推移していることに加え、前期1Qのロックダウンによる反動増もあり増収

(百万円)		2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	増減率
日本	売上高	3,708	3,212	▲495	▲13.4%
欧米	売上高	2,237	2,286	+49	+2.2%
アジア	売上高	2,793	3,669	+875	+31.3%
合計		8,738	9,168	+430	+4.9%

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間を除く)

●主にケミカル機器用やメンテナンスが増加

(百万円)	2021年3月期 第2四半期	比率 (%)	2022年3月期 第2四半期	比率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	4,500	51.5	4,634	50.5	+133	+3.0
冷凍機・空調機器用	873	10.0	959	10.5	+86	+9.9
電力用（車両用）	213	2.4	286	3.1	+73	+34.3
電力用（地上用）	304	3.5	277	3.0	▲26	▲8.7
定量注入機器	241	2.8	251	2.8	+9	+4.0
その他ポンプ	156	1.8	122	1.3	▲34	▲21.8
メンテナンス	2,448	28.0	2,636	28.8	+188	+7.7
合計	8,738	100.0	9,168	100.0	+430	+4.9

●ポンプ受注は中国が好調で他地域も回復傾向にある

(百万円)	2021年3月期 第2四半期		2022年3月期 第2四半期		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	9,012	8,575	10,828	9,361	+1,815	+785
電子部品事業	696	161	757	160	+61	▲1
その他	228	103	202	97	▲26	▲6
合計	9,937	8,841	11,788	9,619	+1,850	+778

貸借対照表のポイント



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)

資産の部	2022年3月期 第2四半期	前期末増減
流動資産	25,962	+ 1,077
現預金	13,793	+ 1,217
受取手形、売掛金 及び契約資産 (※1)	7,466	—
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	4,748	+ 441
固定資産	10,797	+ 51
有形固定資産	8,454	+ 86
無形固定資産	273	▲ 106
投資その他の資産	2,070	+ 71
資産合計	36,760	+ 1,128

負債の部	2022年3月期 第2四半期	前期末増減
流動負債	6,319	+ 602
支払手形・ 買掛金	2,342	+ 473
短期借入金	300	▲ 20
未払法人税等	335	+ 37
その他	3,341	+ 112
固定負債	1,188	+ 108
純資産	29,252	+ 417
(内自己株式) (※2)	(▲ 1,644)	(▲ 643)
負債・純資産合計	36,760	+ 1,128

※1 当第1四半期連結会計期間より収益認識会計基準等を適用しており、前連結会計年度については新たな表示方法による組替えを行っていないため前期末増減金額を記載しておりません。

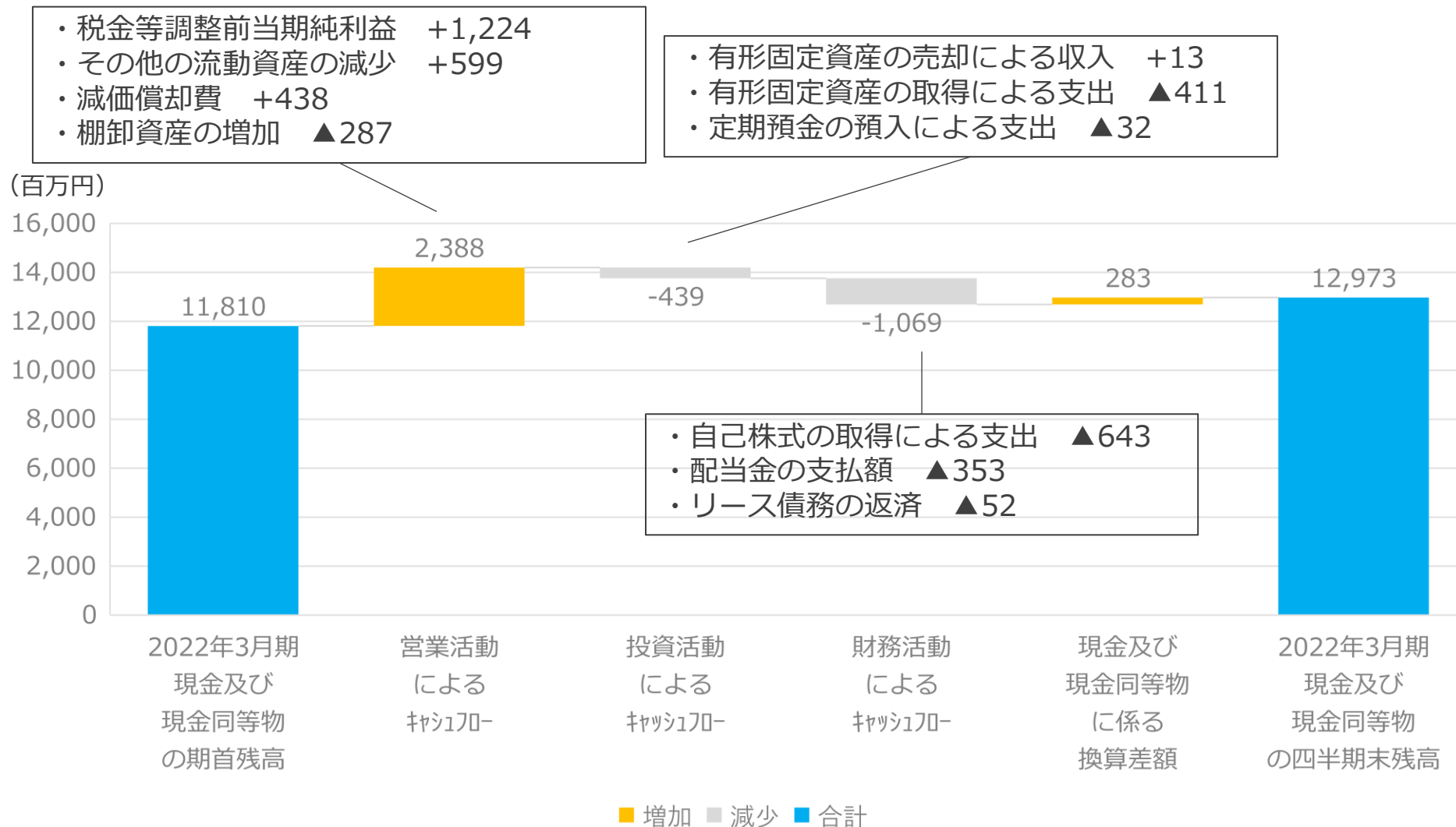
※2 2021年3月8日開催の取締役会決議に基づき、当第2四半期累計期間において自己株式494,200株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が643,400千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が1,644,320千円となっております。


キャッシュフロー分析



株式会社 帝国電機製作所

●現金・同等物期末残高は1,162百万円増加





世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2. 2022年3月期業績見通し



株式会社 帝国電機製作所

業績見通しの前提条件



株式会社 帝国電機製作所

セグメント別		
ポンプ事業	日本	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の受注減少により期首受注残が低水準であることに加え、主要顧客であるケミカル業界の業績回復に伴う設備投資が下期以降に本格回復するものと見られるが、売上につながるのは来期以降になる見込みであり今期売上は微減見込み ・利益は、技術開発センター移転費用計上、防爆取得費用等の研究開発費用の増加等により減益見込み ・不適切な性能試験に係る影響は考慮していない
	欧米	<ul style="list-style-type: none"> ・需要回復の兆しは見えつつあるものの、期首の受注残が低水準であることに加え、主要顧客であるケミカル業界の設備投資の本格的な回復が下期以降になると見込んでおり、減収減益を見込む
	アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・中国経済の回復により主要顧客であるケミカル業界の新規設備投資も回復してきていることから、中国が牽引し増収増益を見込む
電子部品事業		<ul style="list-style-type: none"> ・半導体不足による自動車業界の生産調整等の懸念はあるが、自動車関連需要は回復傾向にあることから増収増益を見込む

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート(期中平均)

1US\$=107.0円、1€=128.0円、1元=16.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円
 (前期実績レート: 1US\$=106.8円、1€=121.9円、1元=15.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.4円)

今期計画（業績見通し）



株式会社 帝国電機製作所

- 売上は、ポンプ事業において、中国市場の回復を主たる要因として増収見込み
- 利益は、前期利益を押し上げた特殊要因（※）の剥落や日本における技術開発センター移転、研究開発費の増加、中国における人件費増等により減益見込み

(百万円)	2021年3月期 (実績)	構成比 (%)	2022年3月期 (計画)	構成比 (%)	増減	前期比 (%)
売上高	19,910	100	20,900	100	+990	+5.0
売上原価	12,422	62.4	12,960	62.0	+538	+4.3
売上総利益	7,487	37.6	7,940	38.0	+453	+6.1
販売費及び一般管理費	5,224	26.2	6,260	30.0	+1,036	+19.8
営業利益	2,262	11.4	1,680	8.0	▲582	▲25.7
経常利益	2,513	12.6	1,830	8.8	▲683	▲27.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,324	11.7	1,280	6.1	▲1,044	▲44.9

※ 前期特殊要因：前期は、中国現地法人の修理子会社2社清算により、過年度に計上した未払税金の取崩しが発生し利益を押し上げた。（販管費に391百万円戻入、法人税等に469百万円戻入）

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）



株式会社 帝国電機製作所

- 「その他」においてブレーキモータが生産終了となるため売上減少

(百万円)		2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (予想)	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	17,895	19,000	+1,105	+6.2%
	営業利益 (営業利益率)	2,237 (12.5%)	1,590 (8.4%)	▲647	▲28.9% (▲4.1%)
電子部品事業	売上高	1,584	1,620	+36	+2.3%
	営業利益 (営業利益率)	▲41 (-%)	70 (4.3%)	+111	— (—)
その他	売上高	430	280	▲150	▲34.9%
	営業利益 (営業利益率)	67 (15.6%)	20 (7.1%)	▲47	▲70.1% (▲8.5%)
合計	売上高	19,910	20,900	+990	+5.0%
	営業利益 (営業利益率)	2,262 (11.4%)	1,680 (8.0%)	▲582	▲25.7% (▲3.4%)

ポンプ事業 所在地別売上高見通し



株式会社 帝国電機製作所

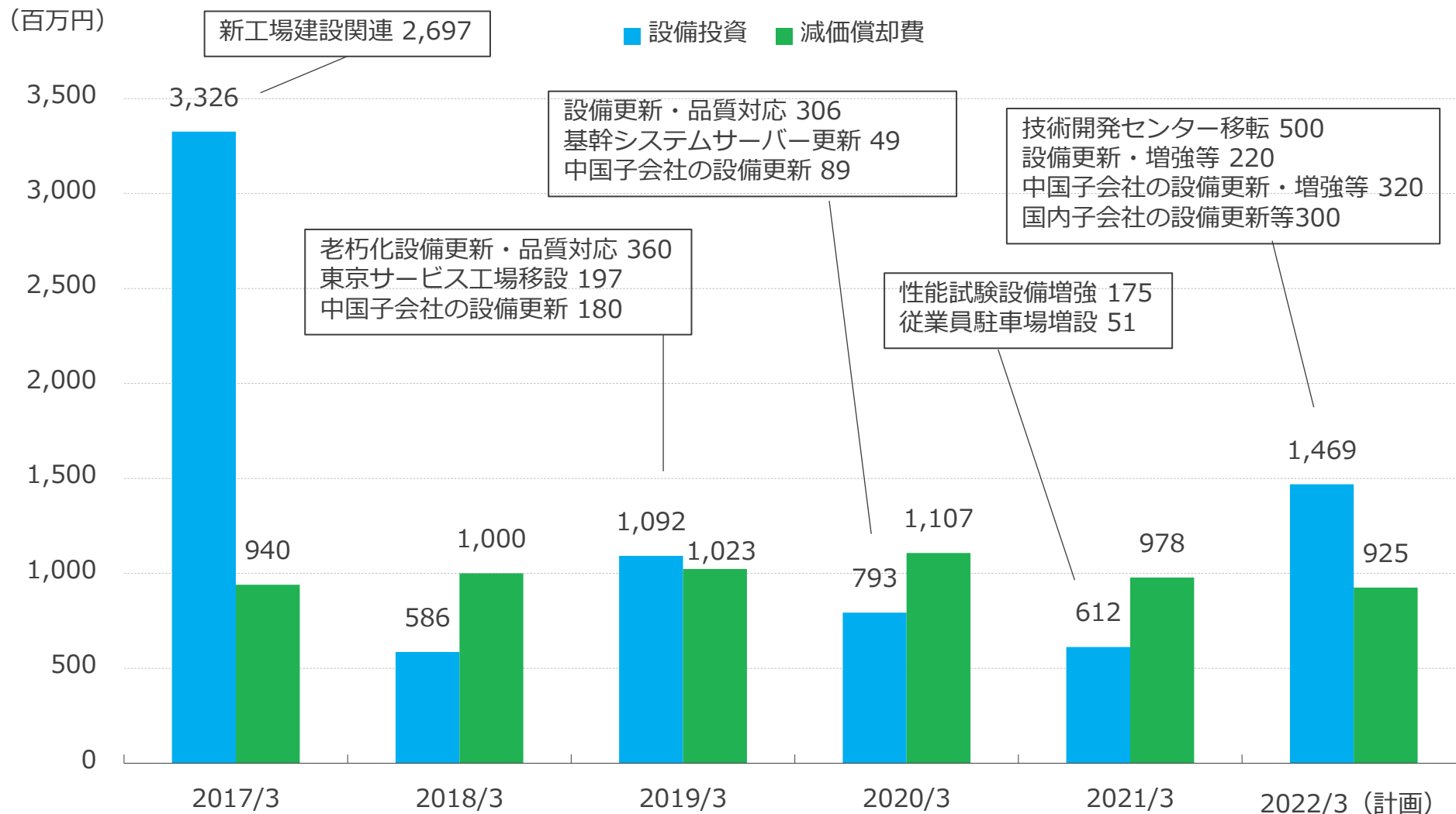
(百万円)		2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (予想)	増減	増減率
日本	売上高	6,956	6,580	▲376	▲5.4%
欧米	売上高	4,460	4,230	▲230	▲5.2%
アジア	売上高	6,477	8,190	+1,713	+26.4%
合計	売上高	17,895	19,000	+1,105	+6.2%

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間は除く)

設備投資・減価償却費計画



株式会社 帝国電機製作所



基本方針

株主に対する利益還元は経営の重要課題のひとつ。
拡大する事業機会を迅速・確実に捉える為に必要となる株主資本の水準を保持。

配当

安定配当に留意しつつ、連結配当性向30%以上を目標


自己株式取得

市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (予定)
年間配当金	36円	36円	36円
配当性向(連結)	※22.5%	※30.5%	54.1%

※ 2019年12月に総額117百万円の自己株式取得

※ 2021年3月8日に8億円（80万株）上限の自己株式取得を発表



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

3. 中期経営計画の進捗状況 (2022年3月期～2024年3月期)



株式会社 帝国電機製作所

中期ビジョン

- すべてのステークホルダーの満足度向上

中期経営計画目標

- 売上245億円、営業利益32億円、ROE8%
- ESGの積極的推進

1. 計数計画

(百万円)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 第2Q実績	進捗率 (%)	2022年3月期 計画	2023年3月期 計画	2024年3月期 計画
受注	19,418	11,788	53.8	21,900	23,450	25,600
売上	19,910	10,179	48.7	20,900	22,190	24,500
営業利益	2,262	1,063	63.3	1,680	2,280	3,200
営業利益率 (%)	11.4	10.4	—	8.0	10.3	13.1
ROE (%)	8.4	—	—	—	—	8.0

※ 2021年3月期は、大連修理子会社清算に伴う未払税金の取崩しによる戻入8.6億円を差引くとROE5.1%

2. 主な設備投資計画

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
金額	1,469	1,667	630
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・技術開発センター移転 →2021年12月中に移転完了予定 ・設備更新・増強等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社業務見直しに伴う設備投資 ・設備更新・増強等 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備更新・増強等

ステークホルダーの満足度向上に向けた取組み




株式会社 帝国電機製作所

ステークホルダー	取組み内容	進捗状況
株主	資本効率改善	・ 2021年3月8日に自社株買い開示（上限8億円or80万株） →2021年10月22日完了（8億円）
	ガバナンス強化	・ 社是の下に新たに経営理念と行動指針を策定中 ・ コンプライアンス教育実施（毎月1回実施）
顧客	顧客満足度向上	・ 顧客管理システム導入による顧客情報一元管理 ・ 規格・認証への対応力強化（製品ラインナップ強化）
	潜在ニーズの発掘	・ ゼロカーボン市場深耕のためのマーケティング強化
	サービス事業強化	・ 注力製品である定量ポンプのメンテナンス人員を拡充
調達先	強固なサプライチェーン構築	・ 国内生産子会社のボトルネック解消支援
従業員	従業員満足度向上	・ 教育センター室を中心とした人材教育に注力 ・ 人事評価の見直し ・ 新型コロナワクチン接種休暇制度創設
	ダイバーシティ推進	・ 女性社員の意識向上に向けた座談会実施
地域社会	社会貢献活動	・ 会社周辺清掃活動を週1回実施
	環境問題への対応	・ 新・技術開発センターに自家消費型太陽光発電設置 ・ 社有車をHV車に順次入替中 ・ TCFDに沿った開示準備

地域別取組み進捗状況

地域	主な取組み内容	進捗状況
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ One to One マーケティングによる顧客との関係深化 ・ デジタル技術活用による生産性向上 ・ サービス事業強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顧客情報の一元化とデータ分析 ・ 工程管理のデジタル化 ・ 定量ポンプのメンテナンス要員拡充
欧米	<ul style="list-style-type: none"> ・ シールポンプからのリプレイス推進 ・ ケミカル向けポンプの一部機種ノックダウン生産 ・ 定量ポンプの販売強化 ・ マーケティング強化 ・ サービス事業強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国、欧州の規格・認証対応 ・ 米国における定量ポンプ市場調査
アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティング強化 ・ 中国子会社の生産ボトルネック解消 ・ サービス事業強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国における市場調査 ・ 中国子会社の生産ボトルネック解消に向けた人員派遣



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

4. 環境経営への取組み

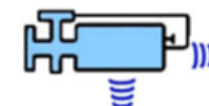


株式会社 帝国電機製作所

TEIKOKU

主力製品であるキャンドモータポンプ

- ・ 完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい
- ・ 運転音が静かであるため、騒音を低減できる




環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

ESGの積極的推進（Zero-Carbonをビジネスチャンスへ）



株式会社 帝国電機製作所





世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

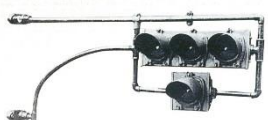
5. 参考資料



株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

1958年
A型モータ
を試作

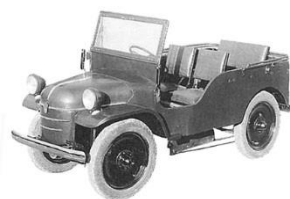
1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収



2017年
本社工場
リニューアル

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功

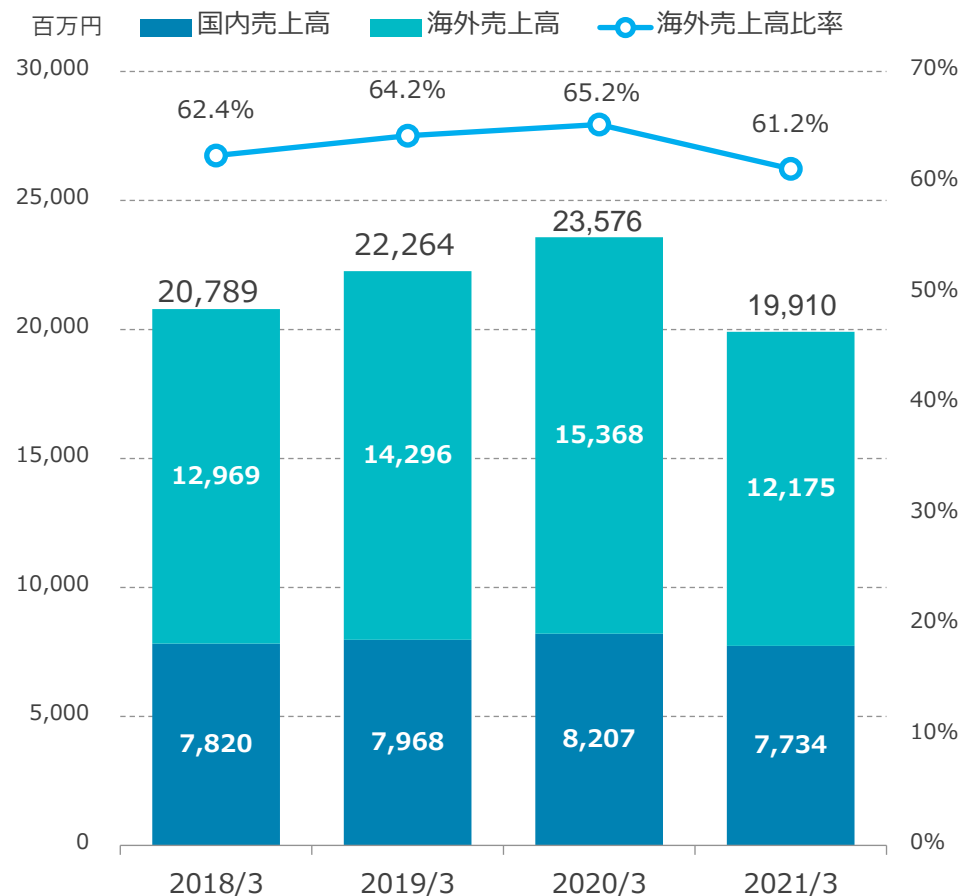


1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

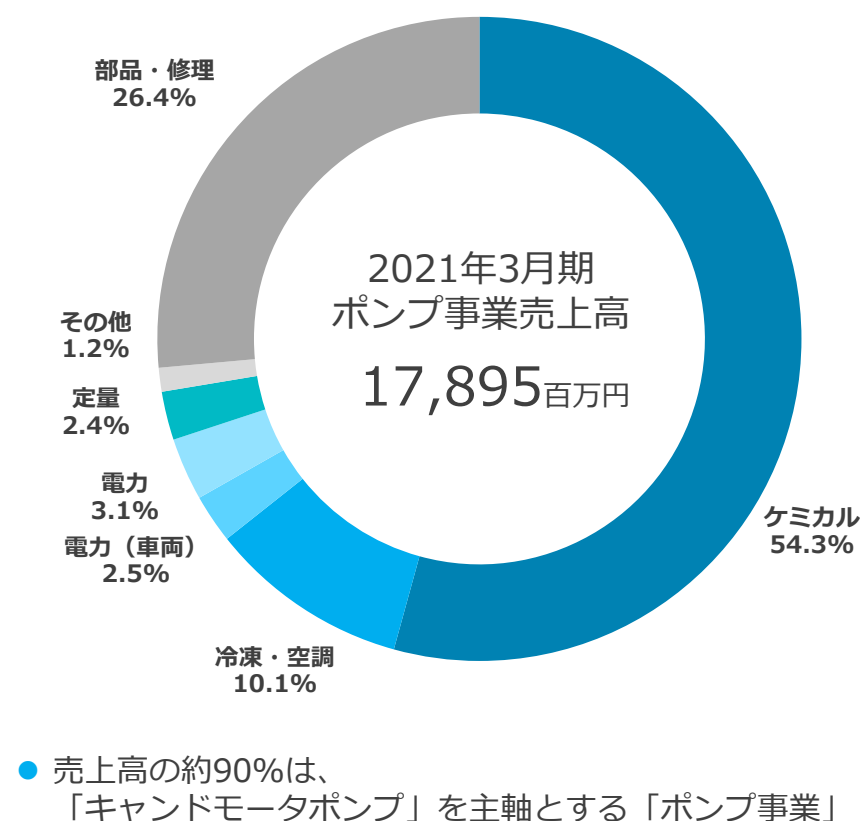
2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

国内外売上高比率の推移



ポンプ用途別売上比率





過去業績の推移

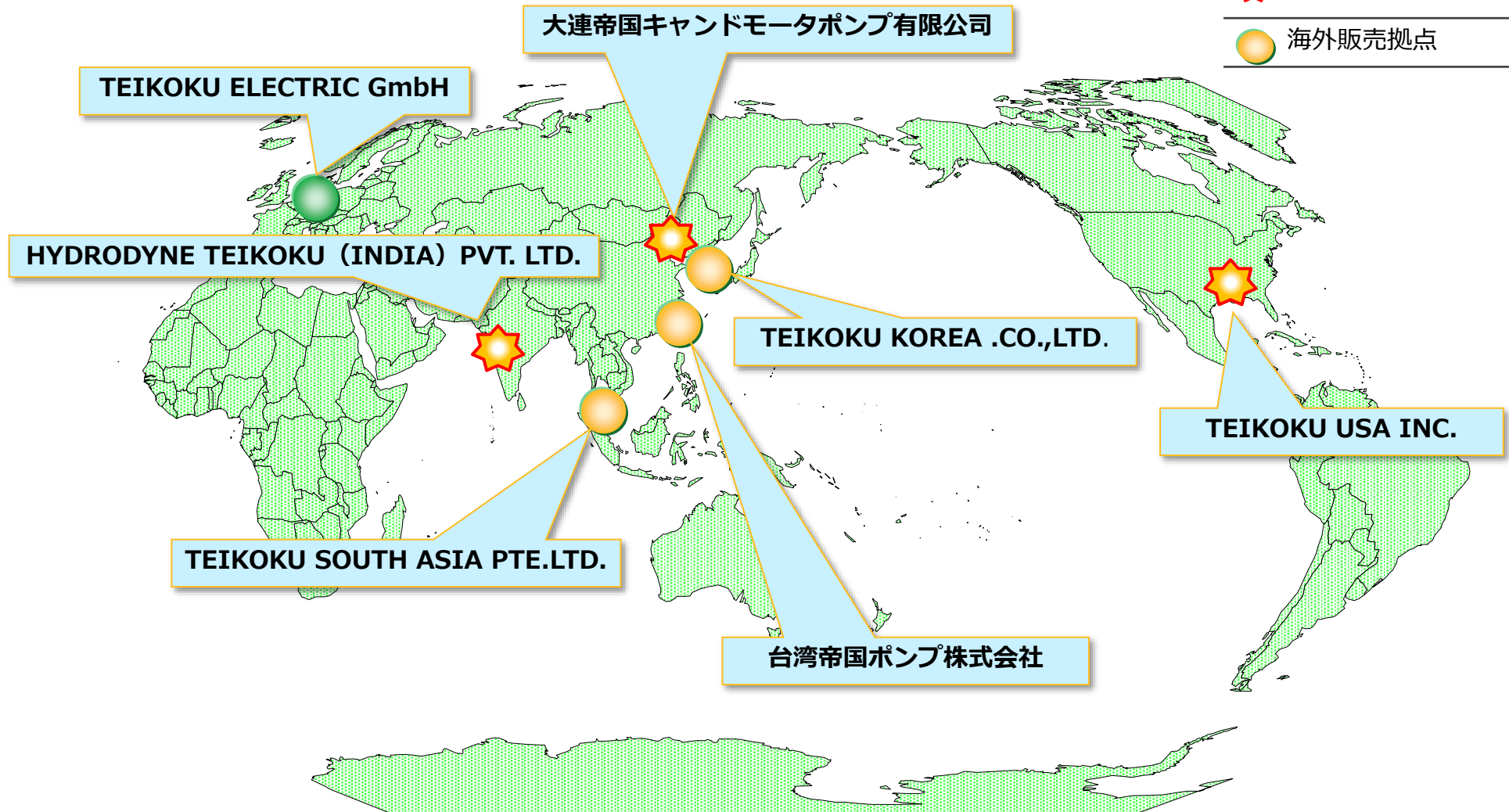


株式会社 帝国電機製作所

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高 (百万円)	19,311	20,789	22,264	23,576	19,910
営業利益 (百万円)	1,666	2,300	2,025	3,750	2,262
営業利益率 (%)	8.6	11.1	9.1	15.9	11.4
ROE (%)	4.9	6.1	4.1	12.2	8.4
ROA (%)	5.4	7.1	6.6	11.1	7.1
配当性向 (%)	26.4	26.8	46.7	22.5	30.5
受注高 (百万円)	18,146	21,723	24,893	22,234	19,418
受注残高 (百万円)	6,339	7,273	9,843	8,501	8,010

 海外製造・販売拠点

 海外販売拠点



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



電動油ポンプ

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



キャンدمータポンプ

国際規格API685に準拠したキャンدمータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



定量ポンプ

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。



大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンدمータポンプが採用されています。



かくはん機

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。



キャンドモータポンプの特徴



株式会社 帝国電機製作所

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩



取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

2 外気との接触なし



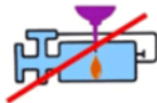
外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

3 幅広い圧力・温度に対応



軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらす



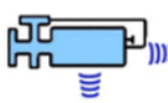
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース



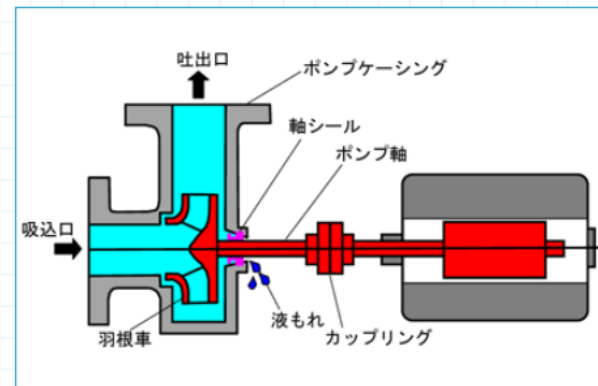
モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

6 静かな運転音



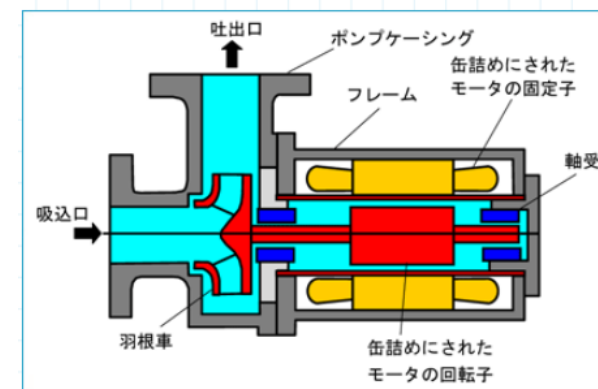
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。

一般的なポンプ

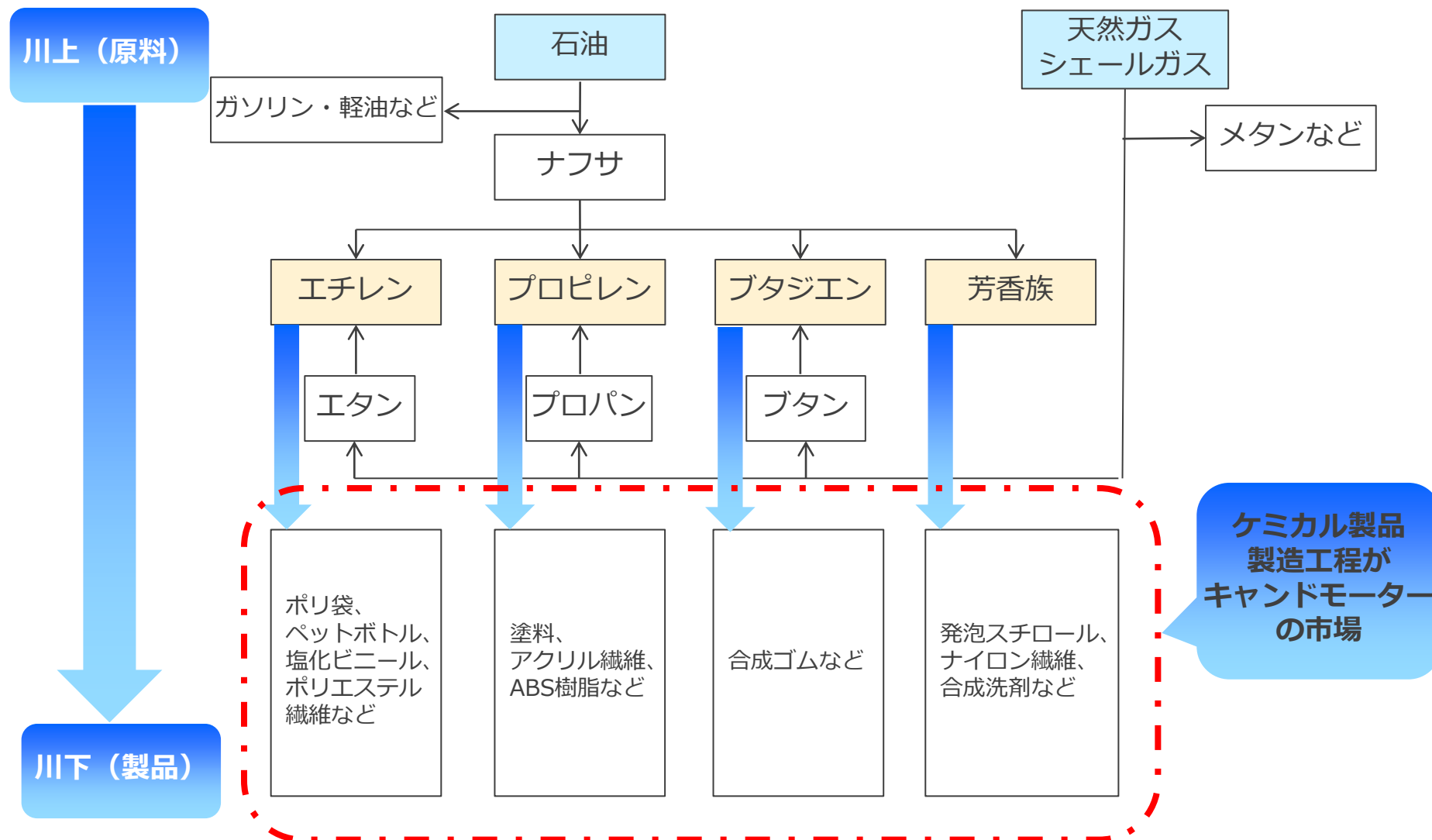


軸シール部から漏洩してしまいます。

キャンドモータポンプ



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。





モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
(自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%)

主力の車載向けに一層注力 (自動車のシステム化・EV化対応)

- 統合ECU (ワイパーや照明等の機能制御機器)
- EPS (電動パワーステアリングシステム)
- SSU (スマートキーレスエントリー)
- モータジェネレータ (車両用発電電動機)
- EV向けモータの回転センサー

産業機械向けの拡充 (省力化投資拡大による需要増)

- シーケンサ (PLC) 用電源基板・表示器

特集

くらしの中のティコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。

★ 新幹線

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。



★ 工場

石油化学、ファインケミカル、医薬・食品など多様な分野の工場で「キャンドモータポンプ」、「定量ポンプ」、「かくはん機」が使われています。



⬢ 大型放射光施設

大型放射光施設 (SPring-8) の加速器施設に「電磁石」が使われています。



★ ビル・大型施設

吸収式冷暖房機の冷媒液、吸収液の循環に「吸収式冷暖房機用キャンドモータポンプ」が使われています。



★ 変電所

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。



★ 発電所

原子力発電所や火力発電所にも当社の「キャンドモータポンプ」が使われています。



◇ 自動車

「ETCコントロールユニット」や「キーレスコントロールユニット」など、快適なカーライフを支える便利な機能にもティコクの技術が活かされています。



★ オートガススタンド

タクシーなどの燃料として使われるLPGのスタンドにも当社のポンプが活躍しています。



⬢ 倉庫

工場や倉庫の天井クレーンなどに「ブレーキモータ」が使われています。



本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないうようお願いいたします。